

第 79 回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録

- I. 日 時：2018 年 4 月 23 日（月） 13 時 30 分～17 時 40 分
II. 場 所：東京大学 工学部 三号館 424 会議室
III. 出席者：青山(東大)、鈴木(MHPS)、長谷川(発電技検)、飯田(東電 FP)、
逢澤(MHPS 日立)、飯島(日溶協)、大橋(中電)、堀(関電)
欠 席：倉富(東電 FP)、幅野(IHI)、水谷(東工大)
代理出席：岩井(東芝：原田)
オブザーバー：高内(神戸製鋼)
事務局：原

IV. 配付資料

- 79-1 第 78 回溶接分科会議事録（案）
- 79-2 溶接分科会委員名簿
- 79-3 第 83 回火力専門委員会報告
- 79-4 第 85 回発電設備規格委員会議事次第
- 79-5 火力専門委員会書面投票 No.74（201X 年改訂第 VI 章非破壊検査）結果報告
- 79-6 JESC 本委員会（3/6：発電用火力設備規格 2017 年追補）審議結果
- 79-7 用語集（今回はなし）
- 79-8-1 火力専門委員会書面投票 No.74 の投票意見と対応案
- 79-8-2 火力専門委員会書面投票 No.74 投票資料一式
- 79-9-1 レビュー票（第 VII 章 QW-420、ダブルチェック結果反映）
- 79-10 新旧対比表（第 VII 章：アーティクル 4 後半、補遺を含む）
- 79-11 審議履歴表

V. 議事

1. 前回議事録確認 [資料 79-1]
前回議事録（案）について確認を行い、議事録(案)が承認された。
2. 分科会委員・役員の承認 [資料 79-2]
山下委員の退任が報告された。新任委員候補として高内氏（神戸製鋼）が、再任委員候補として水谷委員と大橋委員が、出席委員全員の賛成により次回火力専門委員会へ推薦することが承認された。
3. 報告事項 [資料 79-3]
 - (1)火力専門委員会報告
2月21日開催の第 83 回火力専門委員会の主要項目が報告された。
 - 火力専門委員会委員、各分科会委員の承認
 - 第 78 回溶接分科会（2/5）の報告
 - ・新旧対比表の確認（VI 章、VII 章）

- ・発電用火力設備規格 201X 年版のⅥ章非破壊検査の改訂提案資料の最終確認と火力専門委員会に提案することの承認。

○審議結果報告

- ・発電用火力設備規格 201X 年版第Ⅱ章材料の書面投票 No.73 の投票意見と対応案について
- ・発電用火力設備規格 201X 年版第Ⅵ章非破壊検査の改訂提案と書面投票実施の承認

(2)規格委員会報告

[資料 79-4]

3月7日開催の第85回発電用設備規格委員会の主要項目が報告された。

- ・火力専門委員会(2/21 開催)報告
- ・火力関係の審議案件はなし。

(3)火力専門委員会書面投票 No.74 結果報告

[資料 79-5]

発電用火力設備規格 201X 年版 詳細規定 第Ⅵ章 非破壊検査の改訂案の火力専門委員会書面投票の結果が報告された。賛成票が 2／3以上あり、反対票がなかったため可決となった。現在、意見対応中。

(4)発電用火力設備規格(2017 追補)の JECS 本委員会審議結果報告 [資料 79-6]

3月6日(火)に開催された JECS 本委員会における、発電用火力設備規格(2017 追補、事例規格)の審議結果が報告された。

- 発電用火力設備基本規定 2017 年追補が発電用火力設備の技術基準に適合していることか承認された。
- 3月30日に、日本電気技術規格委員会(JESC)から経済産業省に、発電用火力設備基本規定 2017 年追補の火技解釈への引用要請が提出された。

4. 審議事項

(1)用語集の確認

新たな追記・変更箇所はなし。

(2)火力専門委員会書面投票 No.74 の書面投票意見と対応案について [資料 79-8]

鈴木副主査が資料に基づき意見対応案について説明し、審議を行った。コメント、確認事項は以下のとおり。

○意見 No.13

- ・JIS の用語を考慮し、「ラジオスコピー」は「X線透視法」、「リアルタイムラジオスコピー」は「実時間X線透視法」とする。

○意見 No.44

- ・書面投票のご意見、「走査する方向と角度の数」を採用する。

○意見 No.45

- ・対応案どおり、「Fusion zone」は「溶融部」とする。

○意見 No.60

- ・対応案どおり、pair がある場合は「探触子ペア」とする。

○意見 No.65

- ・対応案どおり、「free run」は「フリーラン」とする。

○意見 No.81

- ・投票意見の「入射点」を採用する。

○意見 No.93

- ・対応案どおりとする。

○意見 No.111

- ・対応案について、「穴」→「穴の数」とする。

○意見 No.135

- ・対応案について、「取り入れられていない為」→「取り入れていない為」とする。

○意見 No.137

- ・書き方を、JSME として年版変更したものを取り入れて問題ないことを確認していることが分かるようなものにする。

○意見 No.1

- ・非破壊検査 → 非破壊試験 とする。

■今後の予定

- ①鈴木副主査が、今回の審議を反映した書面投票対応案を連休明けの5月7日を目途に作成し、各委員がこの対応案を確認する。
- ②事務局が、確認された対応案を意見をいただいた各委員に回答し、了解が得られれば意見対応完了となる。
- ③意見対応を反映した提案資料の修正は、新旧対比表の右側の201X年版改訂案を青字・見え消しで修正する。修正案は規約上、編集上の修正または軽微な技術的な修正の場合は委員会での議決（またはその代替のメール審議）、技術的な修正を伴う場合は書面投票を実施することになっている。
今回は、編集上の修正または軽微な技術的な修正と判断できるので、次回の火力専門委員会に提案・審議することとする。

- ④意見対応による修正案は、以下のフォルダに保存する。作成期限等は、分科会三役が別途連絡する。

溶接分科会/05 201X 年版提案資料/第Ⅶ章/書面投票意見対応による修正案

(3)レビュー票審議

1) QW-420

[資料 79-9-1]

前回のコメントを反映した QW-420 のレビュー票について、飯田委員から説明があり、提案どおりで良いことが確認された。

(4)新旧対比表の確認（第Ⅶ章の未確認のもの）

1)補遺（Ⅶ章）

[資料 79-10]

Ⅶ章補遺の新旧対比表について、審議を行った。主なコメントは以下のとおり。

○QW-185

- ・省令要求外は記載しないことにする。QW-290 などの記載内容を参考に表現を見直す。各項目の記載を統一することは、今回は行わない。

○QW-361.2

- ・十全は従前の誤記であるが、「これまでは」に見直す。

○QW-420 ～ QW-424.1

- ・QW-420 は最後の2行を削除する。
 - ・「本規格は ASME2008 年版を基に規定している…」は削除する。
- QW-422, QW423.1, QW423.2, QW424.1

2)第Ⅶ章 アーティクルⅣ後半

レビュー票のダブルチェックの反映はこれからであるが、QW-451 について確認・審議を行った。

- プラズマアーク溶接が取入れられた経緯などについて、発電技検の長谷川委員が可能な範囲で調査することとした。

■今後の予定

第Ⅶ章の改訂提案は、次回の分科会までに改訂提案資料一式を揃え、8月下旬頃開催が予定されている火力専門委員会に提案する。

Ⅵ. 次回開催予定

- ・日時：2018 年7月 23 日、24 日、25 日の中から、水谷先生のご都合を確認して選定する。時間は、13 時 30 分から。 → 7 月 23 日（月）に決定。
- ・場所：東京大学工学部（本郷）

以 上